集彩
絶偈寿帽 全

の如門 無尽

子日庵評　月並二百句合　庚戌十月分

執事

天(六〇五)　香川　地(又又五)　喜雄　人(四〇五)　如泉

書振　篤家　中岐於　宋亂　無次郎

冩野　陸之　秀堂　一仙　空

出ス中位五点ノア

引窓の網にうつむ[illegible]に　下谷　ヽ鶯翁
山茶花やあるの[illegible]からくら　ヽ極奈
つくらや粽[illegible]子めら紙　東翁レ　ヽ柳枝
枕の[illegible]ひつんなく菌に　ヽ東翁
踊[illegible]仇名更りなり　武ノフ子　ヽ分寄
掃きて[illegible]月よ[illegible]のも　スシエレリ　ヽ一阿
引窓の[illegible]れ[illegible]いり　ヽ以文
月[illegible]味[illegible]雪の暖　ミトリ丁　ヽ呈山
ひ[illegible]をつ[illegible]や暦なり　ヽ松堂
そ[illegible]の[illegible]のえに　ヒキクルレ　ヽ素岩
金[illegible]神のるに　アタケ　ヽ清丸
[illegible]にらむ[illegible]に　ドコツメ　ヽ梅乐
山茶花[illegible]日の[illegible]朗　ヽ惯
名[illegible]おモ丁　ヽ凡風
掻[illegible]に　ヽ三涧
半[illegible]旅[illegible]に　ヽ如巴
ち[illegible]太[illegible]の豆　ヽ泉
梅[illegible]の[illegible]子　ヽ作
る[illegible]積日に　ヽ仍
虎[illegible]ろう
さ[illegible]
孫[illegible]枝[illegible]を[illegible]に　喜ハミツ　ヽ宗宏
肩の[illegible]の券

宮の梅やさらくくれくちの扇　ノサ中
まゝくらや涼来の家根の見ぬかり
大根ら一股らのそくそ家々
初もろや一條めらの松のみり
父ひくしき仏の出る初し火
山茶花むら山茶花のむきめ
うろうろ蛍の来るころ
乞のもふる庵もこし蜜一羽　ヤナ川丁
魚の名よ涼み扇あり網代守　一ツメ
筆つらやうろの落葉の捨つくり
らちもろく月の番せ時雨
乞かしして涼通くろく落葉
雑木ひ凪のあうらて新らしき　下谷　並キ
宮梅や神の前へのしるしの座
親しくとしく浮や鮫の味
神のもるまるや垣のゆくり花
松原のしくれてゆくや夕日山
ふられ来てふるきみらよ入道紫
焼きてまちつくまるの月　大久保
家肉中湊のゆくそるのまき藤
藻頭巾耳すし山のとまりそ
牛飼の故も乱出ぬり小夜月　ヨクト
借家の屋を舞ふそ客ちり　大根田
山ふるや古くふのあて来さくまち
きうんくをみ膝よまるや余のみの
蓑笠のおくれ咲かせる小春　て所
冬の月水よき乞を干して　宮ハヒレ
鳥乃茶くふられ千年雪の今　つ
白くもるよ白うろせて来る蝶
麦蒔の日をこしうる代
日のさ乞るせふ人の家や松一のまき　下サユカ
鶏の鳴ちろし乞なあや雲か之く　フカ川

自登　由岐宰　光呑　熊月　兼米　文庭　孝寿　松岳　〃　来山　了我　管我　〃　〃　三秀　貞流　家露　文一　恵光　和人　来阜　〃　岩萩　川雪　文子　沙暢　旭井　秀川　報翠　翠風

乙女の棚や南底の気うらまく
絵岡ひとるやし乙雪ふりて
投頭巾 の投売りきし
らく汁といろて一文のくかもち
宮ちあらの佃子ちらしや何ちら　玉名
茶うくれの茶や節巾のうち向
唐のこし梅やらくせて京めく
仲中るあるや史跡の帆立貝　川島
名月や出ぬ寒ん風の吹し　ツクト
あるしきれのえし衣や雪の朝　奥ノハキ
新絵よ色うけされや鳥さ
指のあふき居宮を着のしそう
花季仏の花見て鶯の谷合
ちうしく来て雪見の手拭
百年の行の秀印や菜くし
一天をらけし夕日や乞の梅　翁　レ
さひまふ何深もおれ我の子　忍川
森入子や来る待るの空ろ　シツカ
茱萸ろ芳は廻り雪下風　カヤ丁
七深く南のみの笑や初くちら　キハ
とんしと池田作丹の深きく
頭陀の梅よむや乳の水の先
何宿うら示でゐまで雪見
木の枝の桃をとるむまや冬の月　イツミ丁
とりや乞のむかし高ら梅非宗
ものめくや小春日和の白扇　不二見レ
冬牡丹あ八條の別やうき
砕さらの冬の甘さよらす
苦行まりまうさ枯野の蔵
切炭よ精よきうね立原　吉丘丁
雪東行やおちるの雨八新ひつり
阿くさき雲う中し小春月

宗我　〃　〃　飛梅　梅柱　〃　幸川　桜光　綾秀　紡三　立島　紫秀　東柳　家蕉　芝月　秀月　記人　静く　松く　紀夆　〃　桂　吐山　梅之　琴隠　穂窓　素保　阿好　穏我　桂笑　〃　秀秀

[illegible]

二

酒樂庵附評

天〇〇 花奥　地〇五 清静　人〇 松友

外　[illegible]　[illegible]　松山　木彦
[illegible]　[illegible]　山[illegible]　旭井　梅[illegible]

[illegible]

子日庵評

天 梅樹　地 里山　人 [illegible]

[illegible]

一松　優岳

[illegible]

○

菜のもの[illegible]

[illegible]

三
我

子日庵評

天 舩遊　地 静一　人 六臼

囚並三百合　辛亥正月分

[illegible]

麦の芽の [illegible]

梅の [illegible] 小松 [illegible] 柳 [illegible]

[illegible — cursive verses with judges' marks and contributors' names]

英松亭附評

天 貞霞　地 紫水　人 亀遊

[illegible — cursive verses with contributors' names]

合歓舎花評

天 翠風　地 瓢我　人 拳一

[illegible — cursive verses with contributors' names]

[illegible]入出口の柳かな　翠一風
網を[illegible]の色や糸柳　拳一
[illegible]柳の化粧かな　窓史
冬七郎

子日庵評

天　翠風　地　[illegible]　𡈽雄　人　静江

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

〇

初蕨のあらくの数を二日灸　竹臼

〇

白魚や網の目をもる[illegible]月　文二

軸

[illegible]　三我

翠風	静江
松古	友古
糸林	静江
𡈽雄	静江
翠風	
竹房	

子日庵評　月並三句合　辛亥二月分

天（六）〇五　閑我　地（六）五五　可々　人（又）五五　木彦

外　松友　𡈽雄　全　　糸拴　静江
　　呂我　徐我　精我　加保柔　竹文

羽子板て[illegible]　中位五点ノア　安宅　𡈽雄
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　下谷キク川丁　葛翁
[illegible]
[illegible]　カンタ　木彦
[illegible]　猫拴
[illegible]
[illegible]
[illegible]　一ツメ　松岳
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　三ツメ　孝寿
[illegible]　柘ミマ　完静
[illegible]　山旭

一

何上をつんかりのうめ　小石川　其村
梅の月かな鳩手紙をひらめかり　大塚レ　風義
引渡や柳よりくるつりあそ　ヽ　梅里
くさやや春はらく出羽田の梅　ヽ　松高
あつきに羽の鳴りきさくらかな　玉屋ヽ　松象女
芋荒へのかき後つくまの菜の花　兄弟ヽ　[illegible]
茜好のりうかうやねての蓑　下毛並キ　[illegible]
菜種の途も見のさくらいかな　ヽ　牛我
許子が「据つくさの嶺やまき　ヽ　[illegible]
をきあかし射あのりしらろうかな　ヽ　堅里
梅のさ眉毛鼻毛のおさかな　ヽ　牛我
雛の振袖八両あのころかな　ヽ　松風
を山も日よく霞むころかな　ヽ　貞来
手つく戸子のつきまでりや許子の竜　大クホ　山寺
大津画よう花さらくもの人　ヽ　森斎
あやさく月もむ笠めきれかう　ヽ　[illegible]
嫁そのか日本そうのえ気るかな　ヽ　蜀
戸懐子影しくありしなく蛙　小生川　夏山
河見や枝もあくさねりその松　ヽ　[illegible]
ひく子代をうきりてうれ松の花　ヽ　菓佳
もの花うつのか河の友　川サキ　菓花
あり見鏡よりまれのもくつ花の香　てく明　名叢
あ花のさくくよ肌をふれかり　東イハキ　今交
乃才よ茶あくくれつ衛笛　ヽ　業所
吹も見や子をりみかちの芽挑　ヽ　斗所
巳の菓もかりまかよまる燕かな　ヽ　[illegible]
はま見うを僧侶さるや雛の搭　ヽ　芸烏

大路まるんてれやつくくし　スハ丁　元玉
うれらきさりしてのゑく鳴ぶかな　二丘サキ　柴友
てみくつれまくるく女人まま　ヽ　柳所
[illegible]　夕ハニノ　静我
折きより足のあまくるきかな　静レ　[illegible]
闇形か李白もめもやもの花　ヨシ丘丁　絲我
まきのさのあるよ梅生まつれかり　フカ川　呆我
傘まも藤のくうれくも盗人　ヽ　[illegible]
節付ふさくら井出の蛙かな　ヽ　[illegible]
後漢溺よ蝶らのかふをすかな　ヽ　積
目の大も出しむきまれの洗髪　ヽ　製
方丈ちめし　まちも出て棟木かな　永拾文　拾風
矣久り庭の鶯あいの山　ヽ　我
恋てまさ土器まちろきくかな　ヽ
学のさや雛を飾し臼のうへ　ヽ　柳我
さの出るよ弟久り偶田のいさる　ミトリ丁　呈賀
けむまうつむや僧正を忘るる　ヽ　[illegible]
咲さるさも酒も咲けれ梅のもの　ヽ　青城
月彩や嶋くるきらしり梅えを　ヽ　古君
てみくそのそうれておる乾森かな　ヽ　縦栞
まきのみ内てれの皇はあかりかり　玄戸レ　素緑
強来のそうさるままりかな　ル谷　山翁
やみいひや夕日にもの花ちるかな　玄武レ　岑玉
魚まくさ夕学評し二月月　ヽ　加奈
てみくまり引出きれかり花の縁　アサ中　係采
のろくさきを見るのきどうかな　ヽ　了我
こうりふせさくく夕の月かな
雛の子かる鴨よ咬七孫なんかな

[stamp] [stamp]

出来心子万才もありむの山　玉乞レ　ゝ　梅樹
るしやくしく平さとらくて　ゝ　窓史
とん店の手がとなりかり炭俵　大魚　ゝ　松友
梟紙のみうくくや十五夜の月
下さ手すのるとぞみてゐる鮒て　ハラカラ　ゝ
落するに木の芽引出す気下て　湖雪

秀逸　君も無ノア

むつ手しきとしへんまるや猪の子　下ヤ　寿々高
来る日よ此方のうちやくれの耳　九岸
窓人ハ元れり此庭の浅くらて　木彦
松のむらてへつくむゐ石竹窓　松岳
月を拝まてして否のむえんて　風安
梟のれんうく笑くり氣取の山　笑義
うちハ来てこ情なし一ニの月　篤我
みくみうくむの山氣の新て　ゝ　双女
岩子ハ七字ぬ盛そくまち　菊亭
京あそり白帆むし石帆而反帆　乾我
むこりの暖笠ノへうくる柳て　扨高
拝ゝ脱ち学ふくむ羽折て　卜我
石のよろ宮やひうんの曲り角　㒵イハキ　宗翁
八えくみ近む手それそうらうれ猫　笑窓
涼書の夏帽子をさあの柳て　叢丸
うれ斗れてもやか笠三京を履　拳一
化さうすぶぶハあし猫の集　三浅マシ
稈蔚の名を亡まてる中古て　木ハ

全六印ノア

まり山葵嫁か姑を泣せくり　木彦
親の玄りのありむの余ゐ　宗我

甚候庵附評

天（天五百）三吉ち　地〇五　木彦　人〇五　梅樹
弁六臼　梅川　求彦　柳我　文我

うくしの新色かり市の鮹　フカ川　ゝ　可夕
むつ月ちるの大雪のくらくて
きも着子をかるぞ手指の娘て　カ保条
きくうしさくくへふさらして　古臼
梟かんで折戸ひらく梅の香　求古

秀逸　六印

来る日や純吉の弁のち子双紙　寿々高
生鍍の身り手るト戸や芝莚　文我
あ刀と歯と抜て天台ちち京百て　中岐
出家名将くるる来を戸の名残て　松成
むこうぬみもとつくりとお月ひかり　芝月
流るらゝ石ある山葵の気味て　三ちち
生砕の生鍍おくるさくくて　流吉ら
情子産まてある鮒のあるして　柳翠
まめ川深や中でもそて一望　綿我　拳一

全七印

乐出折して呈帰る梅尻て　萬翆
足どれかり咲くむま娘子も　風翁

子日庵評

天　了我　地　葛翁　人　卜翁

寅卯之歳旦吟

西行の風呂敷掛けし　花の風　一夕
芦の芽のつんぬく蟹の住居かな　柳風
さまよひの花の春しや　の白魚かな　蟹峰
口ずさむの松風橋し　むかしの子宝盃　卜翁
最少くを表へも　むかへ　やらく娘かな　松友
夕栄の今へ柳にやりやたらを柳

雪峰信夕千　明さる夜ささき夜
みのむしの執出す彼岸余かな

名六記

着子や今も古代のちよつと年くる
ものを控撥や月旅をおもふさま　了我
目白押でよいよ花やや　鮮のある　葛翁

○

毛纏よたるみ山るり春の月

雌

蜆汁　筑波の影を　うつりけり

乐譲　挫我

書志　一二我

嗣号
改名
披露

画寿
雪雄

春夏混題三句合

雪堂更
奥足軒評

天○○□ 閑我　地○○○ 松岳　人○ 瓢我

外

精我 梅杉 松月 志雪 貞素
六曰 古田や 兄之 令交 瓢长

秀逸

春雨とむさし和らり新著庵　フカ川　精我
老松も古き友なり若の色　下毛大久保　富家
酒うしなひてもものくもりかな　柳シ一　桂山
朧のらくて日永のくらさかな　富丘レ　一兆
月やおかろ時雨を宿の松なかり　栗イワキ　青乐
来るあくとろ桃花の花白かな　羽庄内　松風
春風や芝居斗の浮しかし　三丘サキ　且雪
きのうはの暁見よし梨子の花　求古
菜の花や又見よとしくる椿かな　翁レ　花月
鶯啼の耶ともいはず雛かな　足労、　如堂
皆おの元服志らりくもんの色　東老

今も咲てしるしの色や人丸忌　玉島、　梅樹
菱形の窓のあかりや白牡丹　下谷　松月
六三印
人も新たなき髪の御儀かな　一ツメ　松岳
子らしや跡ところきちらん　三ツメ　三長
草の戸のむしろつく紙雛　三丘サキ　濤逸
天綿の中よりうらの月あかぶ　アタケ　了我
むの下獣一さし破きうり　南老
二月の月影うすし木の芽哉　
帰る旅宿の里うられしいる哉　立川　瓢我

二楓軒金卯更
夕可庵評

天○○□ 閑友　地○○○ 松山　人○○ 卜翁

外

貞素 呂二 香丸 精我 古田や
呆家 松濤 梅旭 令交 桂のや

秀逸

氏子らしてみんなくる子姫菜かな　カツシカ　一有
角芽や子のゆくすゑの照笄　白兆

當日兼題

呂竹庵喜雄評

天〈六〉 花的　地〈五〉 竹友　人〈五〉 五明

苔かくしはしひろう存亀虫文　木坂
吹きえてきてく指へまされ木　カン夕
香あるよえらめる内や待おろし　柳シヤ
錦くろうの指子盆ろう敗戸の飯　下毛並木
変ろもしまのト手ありの猿山し　立川
うらおりそさまる子のまや柏餅
蔭のうらんもおろうの若さ木　忍川泉レ
西風の秋風も此柳より　奥イハキ
出きくらのまりくまをよりきろう　在丸レ
よい菜は直きすろれの松のむ
枝すむ子手て差き野面木

古印

紙鯱やしろう野きろうもろしの　忍川泉ヽ
母さろうやまのくろ枝ひろ風車　三ツメ
月やおうろうしくれを呼ぶ松あろう
蜂の名へ盆迦しくろ椅子木　五色レ
枝ちろうの萩うく椅子建日木
蒔る菜の上や菜出さ菜茶の御　フカ川
うれんのむ指さろそまらそく

叢丸　木彦　椿也　篤我　文二　呂山　花和　柳山　松老　南我　閑
山旭　六白　有乐　江戸彦　兎遊　冥友　捨急

同

鳳吹舎錦我評

天〈五〉 可夕　地〈五〉 峯丸　人〈五〉 閑我

秀逸

むるの矢ひや酒のうしくね数
る杭投てむの形役流木
豆腐きる箸刀へろうるゆく木
りのあり小魚へさしうたくり

古印

八方のふさうろはあしむくみ
むも七日嘆てくまね小袖木
杭ゆうも杭をまくやむの山

松山　五川　篤翁　東柳　むの的　竹友　呆我

秀逸

極楽の名きさくむの浄土木
ひろうんの尻の涯さよ夕さくう
土器の熱しまりあり夕さくう
ふり袖の色ありむの陸奥山
む嘆わ浜深手名のさんさわく

古印

むるのなひや酒のうしねうほ
無好なろ三生手經しむのみ

木彦　夕　松孫　尾　菊我　松山　喫急

○名を営せられ上られたり若清水　傍之 翠風
みな傍ふをえらみまて杜若　捨念

○接穂して行名のこゝろし庭の梅　兼題評 去雄
老の名のおもくゆりし菊の(こ)ゝ　弥我

○あくる夜て接木のまゝに見る日かな　梅路

○木からまて天の空観く蛙かな　素牛

田(に)ち越まゆくして

○古寺の名子をかゝへみ
ありこゝの草　子日庵 三我

嘉永四年辛亥卯月十五日道本山中旅可夕翁開巻

子日庵評　月並三句合　辛亥三月分　執筆

天 ○五り 松岳　地 閑我　人 ○口 文二

分
尭枝　木彦　写友　千砂　精我
志旗　松岳　尭甲　静白　梅裕

出帝中位五点ノア

義原や曲り亭き鶏の声　下き　葛翁
鳥織あくる声りそち取こそかな　い　志栄
出代や鶏の常の(の)のおりの山　い　呉之
達葉や蓍きるとふ家ところ　い　雪高
くれまれての中て六本く松家夕かな　久方レ　青白
山(の)やてく雨私みろくらら　い
おろそのいつりりそ手を見く去見かな　い
宮家もとく交りあり鉢の松　一ツメ　松岳
日も永くとおのやねそその桜　い
の山あるを出く枝松そき込巳夕　フカ川　精我
てゐくの長歌らしや宮の庵　い
野もも山に人も孫子のんかな　山あレ　酒山
なくくく鉢白とくやうなの花　い
わうさしてま(れ)十から(れ)乞る(な)かな　カンタ　木彦
市(れ)子まくあくれたり旅人　い
雪の中の退ちろしくり猫の恋　い
うの雪の中くら(く)歌のわられかな　い　岩安
ありく(も)山(く)今(く)る花去る(る)かな　い　素雪
白魚子さしてるこ見さし小町名　杵カレ　急雪

亥三月分

綱おもふまれるよ老の氷かな　本十ミキ　二　保
冬ぶりて坊をあをちかや山椒の芽　〃　一
曽るゝ引はるゝ気のくずされ　〃　哲　我
生に花の弁行時やけふかくし　〃　兮
隅老のしらゝすきけし朶南老　大ノ木　貞　一
白酒やかすへすゞく嫁の白　〃　又　兮
極楽へこんなものよ老の世を　〃　山　一
佐保姫にこそくれてや山の　〃　富　阜
あるゝ昇る児の枝浅や静な　〃　小七川　夏　舎
月ちとは常も林のきらり　〃　菱木　松　出
ちるも梅つのも花ね小きぬ　〃　松
てゆ梅や庭てりし炙の床　主川　文　二
酒み酒会雛出しても花ん　〃
浜静まま糸目つよゝや男の子　〃
猿也花生まゝし精の子を捨し　〃
新のすき子と出て哭よれ　〃
青柳ようくしみ菊さとをれ矣な　三ツメ　一　山
てふくの羽つかひゝり日和哉　〃　外　賀
者若やみの赤しゝきかけちる　〃　涼　居
山吹のかりひえくつやれ車　翁レ　老　月
萩入りゝゝゝ待てもあうくる　牛込　白　雅
元まそて花の名の月こゝり　〃　小　細
かりよる桜のひらりとやま　小石川　楠　了
静まなきも嫁も立派子きそ　ミトリ丁　〃　笠
老まくせく小袖干日や見えする　玉老レ　楠　突
山桜よ身のさかくゝる女な　〃
来の風や旅へするよゝら羊履　〃　樹

文庫ハ不二見形あり高に出　多垂レ　松　友
静よひとな都会てあ香ひそり　〃
一雨をそへ見るよもさき初桜　赤先丁　渭　子
おさくく月のも嫁の影なる　〃
二種よろきさを若ちら落川　〃
の方は入るかや鶯の日よりれ　忍川栗レ　山　旭
花の紙法見つゝを捻料理な　アタケ　売　雄
かるさゝくやむもの人の乳　フカ川　婆　風
目うへのかちふひありも老の山　〃
酸くを老わたの気の玉や枝　〃
山若やも氏もきも年年で孫　〃
あるよる樹まるそて者とく　寺ミてレ　静　仁
投鞍も花もかうかり方かりな　〃　糸　丸
巻すまれて桜のり東る花なかな　キ　笑　友
野出の奴も花軽身うや初路　〃　松　我
峰桂渦田う後街の笑堂の灯　〃　松　我
そしゆけも気ゆけも出来つ老の首　ハ
松のけし世界ありん花　ヨシ丘丁　宗　我
あれこそと老の花えな　〃　孫　我
千大根上な菜よ穀を延しまり　〃　青　識
笠松よ花挽て入かちの老　〃　三　巴
をそくと山鳥の鳴け水な　東雲レ
白色た大きなわのそうしき　三丘サキ　桂　ミ
影とてそこれぞあのこゝてな　〃　葉　秀
芦ふ香や獣面や老の子楽姫　〃　清　安
桜ちらゝや柳のあしひ髪　奚イハキ　鶯　翁
かかなおはひゝらる乞色の本あり白な　〃　業　兮
羽のしの果てのかくや本の牙垣　〃　柳　泉
　〃　柳　和

陰の字をのそいてさまるて春世に　里姜
堂々たるて帆のつくみ哉　春の海　松山
萬歳ゆや旭の上るもちこし朴　东篭
空ん住きや若餅し志かさへ妙　卜翁
捨てさし梅のあとのつえきに　清渓

秀逸　君乃並ノ戸

欲さくら素士のさく虫の匂ひり　萬翁
梅かまや初めくれ男指下手　松岳
ちる牡丹帰の名の片役　一ツメ　幸斎
世をまつる子八様本く様精好　精我
きし姫やのさされてゐる女人事　雪我
明る戸は女嫁男擣や若の伽　八丁ホリ　雪挌
吸茶を腰てよみけて汐干に　斎甲
堂や塀をのそつて泉の墨　涼居
うつひそやら形も仕様庭掃除　亀挌
解のりやゑその上のゑしさき　売詩
襟あしもし日永の化粧の名　玉兎レ　馨風
あの山下戸ノタ好後あさりかり　掛仁
岸の子一挺ら番とのそさかり　斗我
白牡丹本日の宝へ紛のその　李イ八千　隆砂
蛇ろめくみへうさりきてあり門　三　笑ラ　箕石
つきくるや仁六ノ翁をつれて来
門の土と蜂を訪ていくらまし

金六示

久しそめりや日永のつるし鞋　松岳
汁みくいうそれぬ蜂のさうきに　文二
酒まきて睚の寺し形出くる　宗我

松窓附評

天〇〇五　翠風　地〇〇ロ　瓢我　人〇〇五ロ　精我

外
渭方　松岳　跨諸　静仁　桧糸
松岳　萬翁　里挌　松風　呈賀

あまのまとやをさま出来やに
是うそのうし凍のあと永鋼のあるう
ひろ原の若娘の世常もしめに
末の凡の花樣鳴らその挿池花に　挌我
暖衣坊
捨一
拳念

秀逸　西彼宴

吹休もみましききの出来やに　萬翁
やふのやつし待つるとその続　白精
ひろくらそ人ぞきかの初櫻　渭秀
櫻かう色や御のあくし髪　箕秀
ゑの汁するは網引浜辺に　英我
笠松はむしき涸や暮の色　三巴
海当まく葵の上のつりうくみ　暖衣坊
風呂出来の一世帯ありさくし稽　故茘

金六示

先網の瓢草の本つ若え　精我
引沈まるも帰手や苗代田　瓢我
公笑を浮まらるやつきら好　梯楼
きりまもらきを窓で山椒芽出し　翠風
ちろきの中るも風のよのくに　斗亦

子日庵評

天　翠風　地　花屋　人　篤我

[illegible]

〇

[illegible]

入月と出月を[illegible]桜[illegible]

窓史
林枝
ヽ翠風
ヽ英[illegible]
[illegible]
[illegible]
了我
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　閑我
判者　三我

子日庵評　月次三句合　辛亥四月分

天　翠風　地　喜雄　人　精我

[illegible]

古臼　松友
柳川　空山
[illegible]　松岳
[illegible]　卜翁
精[illegible]　蔦翁

[illegible]

静[illegible]
ヽ精我

執筆[illegible]

角芦や志や浅の中の日高川　三丘サキ
綾やうら紙帳の針ふ　、
ひと艶あるよ牡丹のうけれらし　、タハラ
実のあるものともしらて乃の声　、足伊レ
大升よ雲振あふるふ蛍る
まつ鵜や八ツ日とかゝ渡る
夕涼しつれく子も出家の木も　、
梟白鳥の魅さへ麦てよし　奥イワキ
冬かりよひ出されたり独者の　琴丸レ
背戸さらても一本さしてと扇ふ　、
面戸さらて青の花もして栗の花　スハ丁レ
青梅のころけとまひや衣隔
足付くて新日の月夜くきれ　翁
一八や浮世の外の声てふる　、
青梅の花らんころうくふ　又柴
椿外もよ待てよ代り柏まる　、
一本のうちもとうるそ蝶ふ
程くらみ人よちりうる蓮く春　、下モ十三キ
初かつを気也出すや今重之て
雲をを出て月を住みてかくきれ
椿の名ろうてのあろや赤くきれ　、川サキ
加法の堀よ上りて月まらし　、
面かうて雲の田ありや枝植　、
柳かし風そよそせてひら牡丹ふ　、
人よ若のあうらふ人く客牡丹ふ　、女家
驚るの碎さ年ゝよ出てより青田面
系風ひうらまちくむし明の鶴
春紙ふるある鶴斗ーを就まて

云臼　窓友　跨路　李友　竺面　为旋　牛二　卜爲　楠月　紫秀　松山　楠兄　青菖　小杣　乞月　松年　筈寄女　那秋　、ぶ　柳風　一傑　菓座　秋月　小金　、　、　、

恋らきよ礼らしく出て出し花ふ　、大タホ
山焼ゝ叔くらり嫁のうへて時　、
足とゝくまゝかくり松やつり薫　、
夕立や夕日のあとし西の方　、
うの花や惜よ夕日の戻る雪　、
筝の影をつらねく伏家ふ　、
嘘るよううて月のあか翁ふ　、モテ手
捨苗て出れハくたうてや山　、日向
ゝてまる子の日きとる翁ふ　、
菜花とてしるみ窓や蕎麦畑　、口レ
うの花の頃よ南さんの秋ふ　、
手ふてそのをうさや出てそ羽抜鳥　ツキチ
乙女の数みさかれつ夜柳
初鳥の丸ころそうり月の影
うすき世をのうれてもかく子
面夜の船よちうらう寺雲の峰
片里ふてゝ秋へ枝おちのさふ
旅人よ魚のひゝるやふうくて
あても身ゝ男し外やうまらさき
臼うしゝ年よ出て新茶ふ　家山
ちよ雨こゝもしり先に将しよてゝめの子　戸サ中
甘茶ちきるうと出てなんてふ
稗蒔の粮のなり初ろうる
うんてる関西の松そうくれぐり
生蕨ゆくりも落るもまきくうぐ
うの花もきくさ花しう魚の梟　、フカ川
紀の系の耳ふつゝくう子就
なりまうくよ空のちれてゝむ落ふ　、

山鳥　、森李　、佐扇　貞家　松風　柳川　泰川　星秀　旭井　調帝　乞菊　森若女　徐我　、小了我　舞山　文足　加保菜　、文二　、呆我　呉友　、、

隠しむ照内様し昔の春、　翠風
袖とめて献備へうささすや扇かな　ト　休昌
りのせとせ根もなき子供らんかな　ハ　蘇我
扮扇気しうやら照る扇かな　々魚ㇾ　松友
身の丸もこそある福の春かな
白き影の並ぶ傍ら尺ととる扇
初むる鶏山修の戸もおしろさき
雪とは根のつまず子や松の内　、梳山
情兄のせと旅て見ゆる投扇かな　三巴
等なはもくもの奥りや初ときれ　捨名

斎藤宦君評

夜アさやるのへてのうち乳髪　森雄
柏のりの本はさ子をさまくり起きり　以岳
きなく人の余気ハ安し　休物人　糀我
白きのよしのふまゝし　時鳥　管岑
苗代来も毛宮も塚も生れたり　下毛大条　寫我
鶏来の松の月影や一夜きし　、孫我
枝にて見せとさらふ下ふ　英我
初ろうを三十日の餅りらそひふ　果我
乙女の粧着よ見ろうつくま稿　吉原
餅まさきや早月て春着をひとち　、宕　寛
出の灯ハ出もとりねえ史の宮　及井

文古郎

筆や生れさまつて春へ出る　木彦
文言や修て僑しる宮の内　弧我
道きのよえてちん様し夜の幌　英我
九ヶ母のもとや床事ハ店十宮　宋我
熊笠を菊して竹の坂や一夜きし　鍫風

旭照亭附評

天(丙〇ロ)　森雄　地(丙ニツ)　文　人(文)　松山

外　木彦　ト翁　松旌　孫我　旭

斎藤宦君評

筆古きる頃の竹ハ朽りけり
楠檀ハ二なるよ香あり辻るも
きしのせあゐの余トの洛世ふ
みらもなく香早き千段ふ
杜若秋くらくてかさまらり
出る千や夏又なき菱咲く
石夏の帆よ力まし　くみのね

森雄　、　木彦　松旌　ト翁　松山　孫我

子日庵評

天　窓史　地　閑我　人　松窓

　　筆古宦君評
夜めくや今は猫ま笑やせ
ちまきの鏡くしやらんとる
まうしさそめまうり君の雲
みのむしの無も修ようり無粽
松風の葉子みうちむ粽曝ふ
宮りす丸めてやうや汗哉
作夫人夫女三千を笑くうり

古林　笑堂　宏史　孤長　ト翁　翠風　、

立六二印
一休ゟ庵ゟきたりし白翁
悩みそのおもふやう雲のみ波
杉のもと然そのありしきり庭景

宗我 宏安 松宏

○
夏きくや年の旅を終て庭

示佛 松岳

雅
源乏北風もなかより夏玄香

高あん 二我

子日庵評　月次二句会　辛亥五月分

天〇〇五 柳我　地〇〇五五 翠風　人〇〇五 菖翁

外 松山 可夕 古白 古林 翠風
抛柱 静仁 立 調市 糸柱

中 佐五長ノア

夕ぐれや月日のあるよ落化粧　カヤ丁 松斎
月のおそ水綿は涼しき納涼舟　三 菖巴
山をふる雨ふ子すき積る夜かな　下ヤ 菖翁
さつき晴の千代のさきや落化粧　梅柱
一のおりと入おりの二日月　キタ川丁 梅柱
半柱のおそる森の軒かな　白ミ 静仁
大仔の家の度のむかうに　静 レ
一羽八才度の雨やまつ古庭
玄川の雲さるなかる外　山旭
青梅の香れる月もよる名かり　忍川栄 松山
きつし山きつてさるもの風の柱　梅丸
月まつ一そ涼る袖ひとつ
鬼丸白眼で道の有り外　キハ 蕪丸 義我
氣波積や彼面出の川涼し
雲雨白や山やち出家の京菊子
梅さまれや海へ行く不二の山　柳我
よき雲の白雲織て都宏外　宏
梅よそう月より白き老袖外

やゝひまて此福分之麦こかし 木　一カ川　呆我

遠寺のたへなきまれてし 木　〃

笹の舌も風も吹なく庭乗 木　〃

みよしれよる旋もたゝむ扇 木　髪風

研種の弓張月やちる荻 木　〃

遠鴨の声も移もあり辻うち　〃

引神て立とも気や和くきれ　冥友

女旅の格子のやそまちまた　精我

風まさそふやうし男波女浪 木　〃

照風らそらりくり佛贄棚　〃

思無邪　僧　芽　物 木　梅周

手つくろの茶碗をうき牡丹 木　松溪

月みて人のちゝろまちゝ木　吾什 松枝レ

いつまりや月雪もとの田植かな　松旋 足弟レ

一むれハ小雪ふるまき辻うちも　糸荏 アタケ

あすて月のもまて気まて　春旋

師のはや帰止標まあたうて　雅荏

乾帽子子毋まえさる蝶の礼　尭女

帽子呉さんと云やも貴うり　滿丸（若）

不女の口たつさす　吹陰多　潤常

火とうち机の草木くられなり　英我 サルエ

友きくや治衣そろひの秋業木　宏史

帆しよしえもよるみろうその家　什芭

篠もうき枝つき花と白夕と　一客 アタユ下

舟むてあふよ居ふるもと藻 木　章丸 忍カレヤ

ふきるまとまて外堂の呼吸 木　千秋 牙タテ山

不如の山亭かうし　友木立　了我

臁も荒菊く時や仲まます

よしきりの声大声を川辺の笹 波　カンタ　木彦

山一ッ咲すくしるつくし 木　〃

笹仏八きき出をう不出所作　近径

宋古多竹そ総ねえく出ろくり　京冨 モハラ

戸明れ余合う彩さまで新縁 木　柳和 小日向

打みま庭一さいのこゝろ 木　菱山 ハン丁

風の吾と風れ舟　麦田 木　楓蝶 下毛さまよ

ゆきりと石鹸のかわ日今 木　堅舟

嶺子酒ある草植る田ぞ　木　曽我

亥猫や猿のやうて夏やする　貞素 大ノ木

不二山も矢柄を出来つ雲のきね　冨裳

唐ろうを嵐も虎く伴く翁店　冨要（安）

彩きれとえて我まなり竹の皮　又一

まそしまや彩の下まそて舟のつく　松扇

月落て舟きえの出る不ろ 木　春李

月まで家居も翁も紙 木　一仙 月サキ

堂場やまこゝろそ何まるのへ　菊庭

茨寄の涼し　舟焼の出帆六帆　夏史 小牛川

楼織の侍せ　穣や折くく子　松風 モテキレ

松風の上る声しの羽衣 木　旭井

月子白ぞと末　早し不らつ手庄　栄春 口林丁

友きく屋三十日志くれのひち梅　云臼

折枝の文様を吹なれ辻く　呈賀 ヽトリ丁

堪忍をまそれ八まを一年　き氣象 木　东芸 高ハシ

木も葉も山もうくる呉竹さ 木　多仁（来） ワリ下方

咲つきの末ぬ新八さひ　涼之春　八木 小石川

この又とその鳥もきも見年 木　梅了

留らしの奇八あのさそうしの皆

男ゑ死てきつるまちるのす乳房かな　八丁ホリ
風もらり来て秋の涼しさかな　三 丘サキ
をうしよこゝろ情あきくすゐかな　兵イハキ
木ふ竹よみやせてゐやかうかな
掛らんて夜の月夜をかきしろう
あしろいのむを尻目よ投出かな
み縁や絡まい月のいりあかせ
晩い月いきらつ此下ありたる

秀逸君か世

柳風く帆もうく心ろりそて涼し
既筏しそ人を乱河原かな
よしきりや男の業もまろる哉
お日がやめり袖のうけての影
蝶味や袖をう々りしおゐ帰
世居しそ縫く走つり麻縮かな
新月のまそくしのそく給かな
黒髪を出て月まうくそ初かる
一つがつやのまんかるく八月の出る
たそれ男の河内かよひや孫のむ

全六印

俗衣すく差やせ夜やせ盛かな
千両の風をもらりかな
足らそうも汗根板そ蝶のとゑ
きくうそ須よ家なし作なへ
ひるうゐやちるそのとほりの黒かな
夜やせのつうのそのあうくりく糕
涼しさや霧の中より雲卑

寿	月
子	挂
丘	雪
井	砌
蕊	禾
柿	和
也	月
万	耕
山	旭
呆	我
旯	之
一	友
松	登
支	示
孫	我
松	月
令	交
卜	翁
薮	我
婆	凡
精	我
柳	我
木	彦
篤	我
山	鳥

合歓会附評

天（四五句）卜翁　地 欽白　人（四五）木彦

弁
三梓　坂五坊　山 旭　英 家
土彦　支宗　古林　作 芭　楳 笠

秀逸きみを

絲の絵初雪ありてあまり
暑さ森まあちきり竹婦人
わるひまての稲分く妻うし
みうしも宮尻もさらむ扇かな
憐の縁森網の絵かもり
羅虎八まうく猿松よ下枕お
風まそふのやうき男信り居かな
浩ゑ糸の中や家棟森なも
ひるうゑやちる子のまうの黒本箒
後眉山の月ありひ出すり鏡かな
あり近月の御やうそそあけ夜
ちちろやまを引きなり道のむ
女房ら塘や藻本の夕蔵瀧
きゝふ酒熊うり蟹えのお孫かな

全六印

男ゑそうまやけりつ汁のむ
戯男の河内通ひもそのむ
よ松蕣延喜の法代の貢なり

全霙七印

あゆきそ初鉄おゐつくきし盛かな
俳扇ちるもの神段花や恵　笠

静	仁
山	旭
ゝ	我
呆	凡
ゝ	
婆	
精	我
英	我
木	彦
菊	我
瓠	我
胡	茄
ゝ	
ゝ	
英	我
卜	翁
欽	白
楳	女
壵	生

子日庵評

天 松友　地 閑我　人 静々

宗匠撰出

秀逸君無

浦島も[illegible]

鬼灯も[illegible]

[illegible]川の[illegible]

[illegible]日の月[illegible]

[illegible]女客

○

巷の坂[illegible]

浮田樋の[illegible]川向

静々　宗[illegible]　松友　宗[illegible]　松友

糸[illegible] 六臼　[illegible] 三我

子日庵評　月並三句合　辛亥六月分　執事

天 五十九 調布　地 五十五 英我　人 五十一 翠風

外 月光 糸柱 木彦 年る 安定 寛友 静々 蓑風 松友 梅のや

出中位五点ノア

鬼百合や一日女の[illegible]

風の[illegible]

[illegible]牡丹[illegible]

秋[illegible]

鬼灯や[illegible]

[illegible]

了我　宏扇　[illegible]　[illegible]　糸[illegible]　[illegible]　[illegible]　木彦　[illegible]　松[illegible]　一[illegible]　英我　[illegible]　双[illegible]　[illegible]人

六月をくりくりしまる棚かな　信レ　巴風
竹切や山で見ゆるし茂法師　加保茶実　二のや
のりてまいり人のつくるしや涼しき　ミトリ丁　ヽ笠翠
むきりくまるのまて村改の涼しさ
夕立や行きあへくすり坂い月　秀亜レ　ヽ松友
ちて千やくらひらけしる鮮の色　ヽ千秋
子とまうくれ新まうくれて蝉かな　ヽ梅のや
あいしら茶をしめまゆれなり
抱茶や坏れ一む竹の滑
吉しるま二竹さしくら扇　フカ川　ヽ翠風
せるあくやおも夙まあるは影なし
明くるき待まつ手つくりそうかな
実をとりし乍宵金波を翠逢しかな
鬼灯のまち之精や天の川　ヽ示我
入うなや池田伴身の風もきる
耶郎の芽と游ける笹火かな
おしけりの何おあり鳴く笠子　キハ　ヽ耕我
縁らんさ来るまれしろ休ぬ人　ヽ精我
明早ふ戸月は入らり星の玄
星の上まうまえれよ过うもかな
素庭く詰士若竹きらかな　中もヤ丁　ヽ栄
慮仏出子居戌さや象お鶴な丸　ヽ実悰
きらしきの中く涅る明石し
一日の玄佐すし一て先涼し　ヽ梅生
まるまりてば泥を洗ふり　ヽ喜久丸
白無子ょのうち虫枕の子わひかな
乍まさ拝うなむうしきうそ巻人
風色土の中あるひや友の玄　ヽ玄月

味しとさらし井戸で日暮かな　コヽ込　ヽ游雪
老さま中やより風の吹とれまて　ヽ秋?霞
まさ山を根きりて扇の露の宿
ひるよやて文字のやうな信乃杭　牛込　ヽ白露
待秋やこうく膝かき相一まで　ヽ潤峰
ミミなまもまきそうけるも弥仏かな　ヽ小常
柳けり風りし家や秋とまり　向三ヽ　ヽ梅旋
名寺うあるのやまの露かな　白戸川　ヽ光山
てむけ乍嫁の文字の出る上り　ヽ松栓
を宏やるの能来や竹の割層　下ち芝木　ヽ采石
凌雲や大服の目を切る室休　ヽ鶯我
川竹の茂代の表や竹浴人
偲る星なとこうてし浣かな　ヽ一偶
かてのそく流や床下寄らし　川芋キ　ヽ柳風
うら宇言の宗ら枚なり枝桂　ヽ菓雀
勝らるのアの戸のそれよりし竹　大久宗　ヽ貞象
桔を人の田面子月のふやひかな
あろくとやらの夜吟いもも枕
爲羽出の数ちもくれぬ営かな　ヽ山雪
公附の鮭の返公や子けの色　日白　ヽ宮峯
きうくれや思まるくきま舟當示　ヽ為川
田の中をまうくる宿や日枝尾　ヽ星秀
建織も染木も名まて门まり　ヽ六臼
元住涼も尤ちりし舟や手洞子　ヽ一衍
何や谷なり秀て梅の花かな　矢イハキ　ヽ笑秀
木の月くもり風の生れつ友の月　ヽ素云
世えり人くしなる子の机先　玉名レ　ヽ梅梅
つくり人の耳これを吟かなかな

夾六月分

二

紛るゝも妹良もやさし姫の子　口　ヽ　旭井
きしきや身侭気まゝに楊の先　ヽ　書楼
嵐ふくらく岩て相一葉　卍　ヽ　一盗
六月の小袖や色の重さきます　三　タハラ　笙百
ひくしや草以て香ゝ勢ゐ出山花さく　ヽ　小山
負きて出て香々梢雅あり　ヽ　蒼山
起くの月ふまてし茎防ゆる　ヽ　久伯
人来うとのこしてひくく茶火は　ヽ　鶴山
峠あうのとくふ身ふゑや白扇

香遠君評

汗の手てふてる仏の法良は　糸拾
枝くゝさ鬼つくまてゝ毛出は　寄宅人彦
うらとかさく木魚とくひきけ　木むす
月の出て為おさくるゝ名ゝう　柳我
夜やとて来らく乳母の影入は　弧我
引込や隣素身もうさ子も　拾我
叱られて鬼灯まらし魚来し　ヽ　静に
梓弓も三分も出て豆ふせる　キ　ハ　冥友
みかん殻の笈や難波の市しのゝ　月光
風呂敷の子恵んぬの木すゝや金の布　下　ヤ　ヽ
おかの夢へ往るのかりもゝ夏存盛　東紫
結山て鈴うさてちゝ手きさは　笙百
暮そ居そてゝ酒に妬ゐきさは
川上や幣ならしてかりめ立　ヽ　琴風
夏草やてるも見てうる御ろみ

仝六下

世中の秋よ秋なし日本楷
下総の不二をあかりさを打

顧月菴附評

七夕来よこくられぬかりふと虫　宋我
鬼灯や虫籠へきまき姉妹　ヽ　英我
君が為ゝ月酒こそつき至は　調布
人の心多少ふらしやまた樹の月　拾念
孫茶新いうくや娘之朱女人

天〇〇五　調布　地〇五五四　蒿翁　人ヽ　江戸彦
布　青蛾　拾我　静に　英衣　紫文

香遠六下

夕立をきらんてまる奴豆腐は　蒿翁
ようく出て亦居のかとく粽は　清濱
ちゝる帷子むさてひるねの枕は　二の森月
注日より泣きいよりまた地まり　琴や風
祢ゑゝるくし乎や蒙つくる　ヽ　宋我
あさかの居の妹の種なみ珍房衣　拾我
汝らも霧の命気出とりまた　英我
くせの出る和とふ吾さ江菖蒲酒
気広きの色や絹まも小筆一盃

仝七下

耶鄲の夢と消ゆりも火は　宋我
一反の六位ゆかしくて先涼し　冥友

子日菴評

天 清渓　地 玉明　人 廬舟

[illegible]

鬼灯やつまらひよける舌の先　松友
[illegible]　一井
[illegible]　湖常
相一[illegible]合村の[illegible]　夫旋
舟[illegible]の月　卜翁
秋の[illegible]　清濱
[illegible]　画史
成る子[illegible]　素六
[illegible]　玉明
荻[illegible]　精我
[illegible]海坊主　蓼風
[illegible]　呆我

全六点

[illegible]男の子　虚舟
八朔や梅[illegible]　下谷
[illegible]百万遍の中[illegible]　蔦翁
秋の[illegible]　清濱
羽二重の[illegible]　玉明

○

[illegible]　柳我

[illegible]　二我

子日庵評

月次三句合　辛亥七月分

天五五 喜雄　地五〇 藪我　人五二 貞霞

分　孫我　英我　松友　寉　蝶風
　　松山　[illegible]　令交　鶯我　蓼賀

出中位五点ノア

相[illegible]の秋　久方之
[illegible]柳[illegible]　アクケおむすこ
[illegible]　てるゝ我
[illegible]　禁蝶女
[illegible]　糸拾
[illegible]　喜若女
[illegible]　狐拾
[illegible]山の月　翁吉月
[illegible]　乐角
[illegible]　柳西
[illegible]　水魚支乐
[illegible]　松友
[illegible]
[illegible]

執筆

盆られしまで叱らるゝ果報かの　ヱト　梅樹
墨染の身を白きくの色かな　ヽ　濱舎
七夕や網を手向や隠士町　カンタ　木彦
初月は白く照りけり女郎花　ヽ
女郎花読み尾を出る向かな　ヽ
まくりうつ長崎ぶらや新酒かな　ヽ
一升八義あるゝ新酒かな　ヽ
山里は神子も歓喜も踊かな　ヽ
月影の雨だれ念田のそよぎかな　神上　受賀
葛の戸や明れば萩にねむる標　小川丁　積嵒
母の恭気に初秋も萩標　ヽ　鵞季
行ゆや福の神子との宴会哉　ヽ　辭同
子方まへて居るからの二百十日かな　フカ川　宋我
送火や帆かけてかへりしより　ヽ
燈籠堅手をくく桜分かな　ヽ
脛ことわざて生身の魂　ヽ
夕ぐれ立作や吸の渓の秋　ヽ　婁風
虫の音を吹く風もりまどろかな　ヽ　冥友
秋の世をしれんの月日かな　ヽ　義我
むさとしたる寺口の秋の競　キ八　榮惊
見えけぶ並て井よえる一つかな　ヽ　柽我
深く秋は秋けも涼しくそかな　ヽ
ろつくし白不きし秋の錢　ヽ
唱し人の宴来のかり浮の月　牛込　口キ丸
白いのふむの声白き男の月　イサラシレ　白骨
稲妻の横もて見の縁彼かな　ヽ　むぎ扇
志かしらくし芋売火ての新　小石川　松山
春らかくたの嵐や虫の声え　ヽ　ゞ幸

萩こして濡て次来の袂かな　三クハラ　笙香
碇がらし秋の送りかな　ヽ　昇山
名月や琴ひきひろしる扇　ヽ
いろいろや忍ぶ姫手の初秋かな　ヽ　鶯為
口の節うしろのそよぐかな　釈イハキ　令交
いるいろや錦様山の夜ありけり　ヽ　中砂
秋の雨につの名の残し来き　ヽ　望暁
きくつくり菊を告月の去るかな　ヽ
つぐいまのあたな戸口や荻の声　ホ生丁　渭為
川の脇に初秋のまとられたり　ヽ
子を甘くしつけるてより一籠扇　ツキ子　暦舟
妹と背の山をたよらぬ硯かな　ヽ　笥我
あさかほや露のつゆちの花ずすき　野若キ　毛陀
とかくうつ秋ともかりけり臼の音　ヽ
気白のや日ましに揺るゝ土鋳　ヽ　貞宗
香るを追ふ風の溜風や秋の山　大クホ　留家
隠れ泉りを送ての秋の風　ヽ
名来のありて見行くとより　ヽ　山為
あさき縄にゆるすての盆の月　ヽ　来季
ありふるも角文字やいせ踊　ヽ
白あらぬに名あり秋の宿　ヽ　北扇
出まゝや小被も来む月のかな　ヽ
木の末の名のうへ手やえら風　ヽ　呈為
きりくし手燭や明け方白星　日向
七月やむしを凡芸の盆菜市　ヽ　一僊
古時ても引くれし友まよう　川サキ
横巾の荷や角力とも生酔と　ヽ　菊我
芋の芸会利ともろんかや星迎　ヽ　拳一

秋の茄子名ハ古白さやかし哉　ヤナ川丁　満丸
こゑの花ちりをはらひて白露と　石ハラ　文鷲
月かけの言のまゝや踊の女かな　清渓
まさらけや気候て宵の男かな　〃
子ころの欲鬼灯のひとつ哉　〃
まさしさや素面ちらの香居たへ　寺清名　楠月
それ〳〵ま手年をも金や冬の露　〃　柳雪
秋の露待つましこのあきり哉　カツミ丁　仁志
萩えて稲や余のうくれみの　芽ヒ丁　秀塚
七夕や歌のうへも作の糸　今戸　鬼山
松の戸や明月世のそゝろ筆　池丁　楠林
秋の風垣根の気色ちりかゝる　庵人

旦文

秀逸君か世

薄とす〳〵二文のひとつかま三段栗　アタケ　了我
手に月庵名あり稿ハ学まなり　〃　壺旌
松の戸や菊子え要つき宮の叢　菊レ　石雅
啼子きるつゝし筆もるなゝゝ哉　英我
積波おすやや東山ての立秋来　木彦
誘たさきむし二谷の庵　六臣
見みられてちるを見ゆる柳哉　フカ川　精我
秋海棠田舎娘のまつゐ哉　新我
稲の白や見よく垣のあとゝしく　聖川芋　菊座
むつましい嫁と娘や宵の月　ヨミ丘丁　青燎
ちる露まてうつりよる紙帳哉　アサ州　赤明
気配かきし出るやきのこ山　諸我
二つ三つ見えておるり星の哥　楠香
秋やの砂よえうける誘見哉　庵人

全六印

逆雲子送られて来る子供哉　カヤ丁　呈賀
誰しるすへ田の雲の暗ゃしかり　ミトリ丁　壺旌
待と入るゝゝゝ嫁も嫁も　叢我
掛るも先祖も来より盆の月　〃　筍我
あら新も盆もてめすらし空の月　貞家
親出てたれハ呼つらり秋の風　捨家
名月やつかりる子供揃の子供

玉川堂附評

天 〇〇五　月 〇　地 〇〇五　松風　人 〇〇五　天我

外 一停　壺笑　楠楼　石雅　筍我

秀逸六印

秋の雲や星ハ夜中のうきれもの　菊レ　楠呈
伯言の松や宵のかくの手きる　木彦
鬼灯やうそとまてもの香の先へ　義我
をまるしもかくつ宵や稲の光　起我
名月やうらの先の六玉川　壺遊
ちゝ田へ花ゆすまうく寒の厂　上サ佳名　竹家

全七印

墨波の後安ハ安し一寸の庵　楠樹
名月や子不ふ日も海のちり　三寿一
芦原や見まうえと出のしる気　月〇

子日庵評

天 窓史 地 調帝 人 花交

[illegible]

[illegible]の[illegible]秋の[illegible]

[illegible]の柳[illegible]

[illegible]の戸に[illegible]

[illegible]

十七の鬼や丹波の栗[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

七草の[illegible]

[illegible]

菊我　英旌我　宗我　六日　松友　花白　岩史　調帝　志交　調帝　三我

子日庵代

夕可庵評 月並三句会 辛亥八月分

天(六十四) 錦我 地(六十五) 閑我 人(六十五) 渭水

孝暴 英䖝 翠風 潟汎 調帝

二のや 宗䖝 又風 松岳 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孝 [illegible] 仙 [illegible] 夛橘 [illegible] 渭石 [illegible] 宗 [illegible]

松岳 [illegible] 柳 柳 柳 柳 月 [illegible] 我我我 [illegible] 我

まろくすきまくやとゑおうゝ虫のこゑ　アサ[illegible]　二のや　彦
似て似ぬ八人のうたよみの月　カンタ　未[illegible]
形ありノの不二を戸にてらす[illegible]米　笑イハキ　紫[illegible]
生酔を丸めて[illegible]月の[illegible]
むらさきよりてをつくし[illegible]
設[illegible]て踊る[illegible]
月の[illegible]の光あり[illegible]
実の[illegible]の実の入稲[illegible]
稲も[illegible]
秋の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]の宿
[illegible]の[illegible]
三日月まさる[illegible]秋の風
立秋[illegible]の[illegible]
白きくは[illegible]の月[illegible]
一[illegible]の[illegible]
[illegible]七ツ[illegible]
芋を[illegible]月の[illegible]
畑なるや[illegible]
車[illegible]
人[illegible]秋の[illegible]
月立て[illegible]料理人
旅[illegible]女[illegible]
[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]

呂竹庵附評

天〇五二　翠風　地〇〇一　花的　人〇九一　一峯

秀逸
盆の月[illegible]の首[illegible]
[illegible]風[illegible]一[illegible]世界
鬼灯や実の[illegible]
[illegible]百[illegible]
松[illegible]
[illegible]の枝
[illegible]月[illegible]
[illegible]菊の[illegible]
[illegible]月の[illegible]
千[illegible]
[illegible]子
[illegible]
[illegible]の風[illegible]
[illegible]月[illegible]芋の[illegible]

空六印
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]月
[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]秋の[illegible]

[illegible]　松岳
秀逸ノア
材木の[illegible]の月
[illegible]山
[illegible]

呑玉も悪玉も出るきせる[illegible] 木彦
二日月よ[illegible]の[illegible] 捨月
星[illegible]月[illegible]の[illegible]

立六郎

蝶さるも木の[illegible]
時や二世の[illegible]の笠の下 胃
[illegible] 呆
[illegible]の入帆稲の出穂 翠
鬼奴川もちりめん[illegible]秋の風 フカ川 呉 / 武 的

夕可庵評

天 松山　地 呆我　人 鶴

[illegible]

[illegible]女[illegible]
秋の[illegible]入日[illegible]
[illegible]秋の[illegible]
[illegible]猟男[illegible]の玉[illegible]
大[illegible]
[illegible]
[illegible]牧の月

⊙ 呆 哉
[illegible]の玉 松 山
○ 鶴 英 古 白 哉
田や畑の[illegible]子捨[illegible]月[illegible] 附録 袁雄
○ 三我男 夕一のたね 素牛
辞世
更[illegible]月の[illegible]

子日庵 三我居士

子日庵[illegible]の人と[illegible]師父の[illegible]

子日代順二評月並三句合

辛亥十月分

可夕庵精我乐評

天 ⊗○五 秀蝶　地 仝 一我　人 仝 袁雄

木彦 三女 袁雄 翠 胃
無名子 翠哉 一九 英哉 梅主

○五点ノア

[illegible] ミトリ丁 笠 賀
[illegible] カヤ丁 松 友
[illegible] 石炭 アサ山 松 彦
[illegible] 秀 梳
[illegible] 塘
[illegible] 本 柳
[illegible] 不 無名子
[illegible] 一 東 乐
[illegible] 東香 三 女
[illegible] 山 旭
[illegible] 双川 翠 我
[illegible] 小松 松 山
[illegible] 翠 挺
[illegible] 袁 雄
[illegible] 宗 仲
[illegible] カンタ 一木 彦
[illegible] 東菊 翁 呆哉

すゞしさや夏の白く〔梅〕の庵 キンレ 巫木 白鳥
新そうしもんも白し枯野原 大ミホ 一い 菊我
光うすの川やゝ山の紅葉けり 一 家我
さを積や君よんをつくし雪 — 我
たゞきれておろ残菊入やしのきけ 卯
朝て大る紅葉の中かうりの〔秋〕ざかり 岸我
凡夫焔の中から〔上〕のやさしさ 岸 フカ川 笑 我
やきれいの庵と川涛の紫 中松 レ 徐 我
薄〔あ〕かり猿うる上の小春 ア 采 我
雪をかゝや小春のよくて保の光 アタケ 竹 我

[illegible]

きのぞの山くくそとくをさゞ 皇 賀
ちらんせくやすしの下白を大女 秀 傑
さきる名とうゝろ〔は〕の将牡丹 — 滑 示
桜うけそうみる中へ八 — 清 漢
崖もとって山のちくすよしのそくり 由生丁 山 旭
世そう〔と〕山へも入れ紅さきそ 木 彦
山保居の〔人〕ら〔蕪〕さとんが 莊 雄
雪ふら〔ふ〕ま尻く〔ら〕く〔ら〕れもりまり 一 介
日本くまの山よ〔ゞ〕り雪の紅葉け 一 我
紫のりけいの代の竹を新かり 笑 武
みのむしよ〔蕪〕の〔若〕松や〔鳴〕ちとり 舟丸 レ

立六師

二夜蝶のえり咲あり松ヶ〔崖〕 小松 小 〔翫〕 我
系のゝつくり日和を〔吹〕むり 兄弟 、 梅枝 女
織の花のむりをうまれ定〔売〕仏 一 我
いろいろもにうたかをよう風の〔秋〕 一ツメ 松 岳
二世〔うみ〕 〔菅〕も〔花〕や河〔錦〕汁 筆 我

愛日堂捨念采評

天 五五〇 木彦　地 四〇〇 閑我　人 五〇〇 槐陽畫

外

〔秋〕〔字〕 〔翫〕〔家〕　花 〔采〕〔家〕　立 木彦　精 〔葉〕〔家〕　松山 木彦

〇五点ノア カハラレ 婁 〔枕〕

まつよやるのゝどかおとに出る
つれもしろくや〔年〕〔お〕くわ〔き〕らく 〔渭〕 〔水〕
〔春〕さ人の出て〔梅〕る〔若〕菜かな 〔静〕 〔介〕
日本〔生〕山く雪の紅葉かけ 松 山
うつくきの〔禄〕やもちんさ〔二〕〔株〕の秋 下モナミキ 〔号〕 我
〔待〕〔納〕豆〔汁〕〔傍〕〔若〕〔衣〕のまくろ〔紅葉〕そ 大久ホ 貞 〔家〕
種まき〔しらか〕の〔室〕生や〔みゝ〕〔ゐ〕り 〔表〕 〔考〕
枯〔萩〕や〔粧〕のあきまの〔不〕〔破〕の〔関〕 〔松〕 〔扇〕
鬼灯や三人のりのゝるのくく 〔冨〕 〔岩〕
朱まつくれさう〔する〕〔桑〕の〔え〕 山 〔書〕
松山は風らくくわく〔ゝ〕り〔寒〕る 〔瓢〕 我
あり〔と〕〔柴〕〔衣〕〔粥〕〔雪〕ぞくの志 〔表〕 〔旋〕
〔春〕〔苑〕〔やる〕〔若〕〔葉〕〔もん〕〔鳴〕〔あ〕〔ら〕 〔永〕 〔義〕
むよ〔ゐ〕の梅〔咲〕あり松ヶ〔枝〕 〔京〕 〔柾〕
おうりもうゆる〔紫〕〔苑〕〔花〕 東 山
雪の〔花〕〔武〕士〔の〕〔付〕〔き〕〔風〕〔呂〕の中 アタケ 〔采〕 我
あかりや〔朱〕くさりも〔味〕〔ら〕れ
粘〔ら〕りや〔ゆ〕る〔小〕〔まき〕〔ら〕〔れ〕〔出〕〔初〕
る士のえ〔ら〕〔く〕〔女〕〔傳〕〔物〕〔かし〕く〔ら〕〔れ〕
仇〔ゆ〕も〔納〕豆〔し〕く 男うう子
〔待〕〔そ〕ら〔くゐ〕の〔斗〕〔を〕〔く〕〔る〕〔き〕大工かな
仏より木〔魚〕の〔姿〕〔さ〕〔め〕〔とん〕 フカ川 〔袁〕 〔代〕
とうのうち〔来〕も〔小〕〔豆〕や〔柿〕の〔花〕 サクマ丁 米 〔女〕
木のまゝある〔ま〕るの〔ま〕る〔秋〕の〔室〕〔さ〕〔か〕 横川 〔尺〕 我
〔笠〕〔山〕〔を〕〔ま〕るや〔あ〕〔ら〕〔ま〕〔と〕〔風〕〔呂〕〔え〕〔の〕 〔栗〕 〔宗〕
ある〔雪〕〔ま〕つり〔座〕〔の〕〔な〕〔き〕〔さ〕の〔雪〕 小松レ 〔精〕 我
〔花〕〔春〕〔の〕〔中〕〔へ〕〔と〕〔わ〕〔り〕〔の〕〔役〕〔か〕

〔秀〕〔ニ〕〔泣〕ノア

〔う〕〔さ〕〔ら〕〔こ〕の一〔家〕〔向〕し〔冬〕の月 東〔前〕 〔勝〕 〔生〕
〔般〕〔そ〕〔ふ〕る〔漏〕〔す〕さくりてさうう 、 〔竹〕 〔示〕
〔待〕〔ち〕〔え〕て〔立〕〔派〕に〔まさ〕く〔木〕〔る〕〔か〕 、 木 〔考〕
〔宗〕〔ま〕〔や〕〔鳴〕〔く〕〔ま〕ら〔風〕〔ま〕〔ら〕の〔包〕
〔風〕〔呂〕〔の〕〔冬〕の〔熱〕田の〔宮〕〔え〕〔ち〕〔ら〕 〔松〕 我

あさ〳〵や露よりつくる〳〵に　ニ三丁　呆静
星の影のうつりくる火さへに　冥其
尾も出てあそぶ小狐の群　ハ二丁　土之
日向ぼつこりよるや香さ廣　静我
狐はの子は角大将あり弥の
丸盆のうさ〳〵の吉田土　木ハ　柳仁
蛍るの僧尾くり出す新酒に　小松レ　松我
風呂さ〳〵も火を仏や十夜まて　岳

至六臣

春弥や年の日今の梅さく　　李子
火もみんかの弥とあるさま　　兵名丸
木琴も打つひ〳〵鴨の声　　日吉我
酔只衆の字まて〳〵風車　　呆我
たらん至へ入り込み〳〵て　　精我

菊露庵評

天　春梅　地　呉来第月生　六臼　人　一我

素道六臣

梅竹や名の花咲ひとむし　　瓢我
梅垣のかくれ咲や〳〵の花　　六臼
雪も〳〵ら端来の色かん　　一挍
月の梅とかくりあはせの中　　一我
朧の月よふる灯影や蕎の中　　一我
月うけや名まえの〳〵飛燕梅　　一我

七臣

あわや香のうつりや月の鴨　　春梅

〇

菊みや梅のひるて〳〵焚の猪

初雪やおちるさ〳〵さそひ哉　　佳之　菊我
雀子やとしの翁さくおの光　　桧念
雪ちら〳〵雨菊野の夕日かな　　精我

子日庵代順二評月次三句合　辛亥十二月分

清文堂松山楽評

天〇〇五　錦我　地五五五　寛之　人〇吾　渭水

梅挍　寛之　翠家　春雄　呈賀
春秀　渭水　呆家　東周　翠風

〇五点ノア

あるとちりの霰合や糸車　　花丸レ　鶯谷　錦我
ころぞろく皆よもの東は泳ぎに
出るところ急のおれは何うろ
雪の日や林学子碎して士の貝　　お生丁　鶯之　渭芝
羽の音きりの鵜なりすまし　　渭秀
法然楽至を羽打ちかへし雪ほへ
春ちらく仕立めや〳〵さし
帽ふくや冥れ後の七めき　　小松レ　瓢我
牡丹のメや錦やとしの雪　　呆挍
築きて〳〵嫁衣のまど哉　　翠風
松と杲て弥極くさき〳〵　　呆我
てくて〳〵至人子あ　慧さ〳〵氏
子やまあ〳〵猫背も猫去も
立ち輪やう手悪の堂を過ても
輪うちは光ろう〳〵る綾めらう
さゆう所や史紀もれ傍も机　　六
こしの庵や係後此る燈後臣　　白

殊しておのうへる小灰かな　、
枯合て月は角ある　[illegible]の山　、、
その鞘や[illegible]山の紫の[illegible]　、
[illegible]世[illegible]遊[illegible]の日の嵐　、
小[illegible]のもとなく[illegible]　、
借[illegible]大[illegible]　、
[illegible]矢の[illegible]の川　[illegible]　、、
[illegible]小[illegible]除[illegible]の光かな　カツラ　、、
[illegible]　ヨコ川
川[illegible]の方　下谷大久保
昇日の[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]風[illegible]　、
[illegible]の[illegible]　、　芝木
口[illegible]炭
[illegible]面　信　レ
[illegible]の借倉かな　三ツ每　、
不女の[illegible]かな　アタ　ノ
槽[illegible]
[illegible]
秀遊ノア
[illegible]
[illegible]　向之　一
[illegible]　[illegible]戸川
子[illegible]の市かな

殊我　、
桑[illegible]　、
卜翁
桂郭
喜之
寛旌
松友
登[illegible]
尺里
一我
貞二
山[illegible]
鶯[illegible]
秀我
喜[illegible]　、
英[illegible]
梅我
了我
[illegible]枝
捨[illegible]
梅[illegible]
二本坊
渭[illegible]
[illegible]　、

梅[illegible]
木[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　、
[illegible]　、　東[illegible]　レ
[illegible]
[illegible]

映日庵雞遊楽評

天 四六五　翠風　地 四五四　松友　人 四四五　閑我

前　松友　一登　庄示　虎杖　瓢[illegible]
　　[illegible]　[illegible]　[illegible]　渭[illegible]　瓢[illegible]

○五点ノア
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　小松　レ

宗我
寛之
秀[illegible]
[illegible]女
渭[illegible]
翠風
宗我
喜[illegible]
寛之
二本坊
渭[illegible]
瓢[illegible]
[illegible]我

そらくせに恋人も有し葱きらひ — 我
子おふよ来らり稿紫も衛台も — ヽ
うちきの小らふ出めて咲るむ山 — ヽ
岸なかうき里の名のりくそる泣り — 挙
宝の戸やのそきを近口を梅かち女 — ヽ 松戈
数の的を□らきらし□りの棒へる支 — 我
雪さ行きるくなかりり山の名氷 — 笠 賀
宝をしし奴ゟ尻もさぞしから — 素 季
もしるる有をぬるれる身季かな — 一 家
久しくに云あつくなく蚊帳かな — 菊 仏
ゆそりしく月も参るも多くの梅 — 一 我
口の翻く恋のまかれや氣ちかう — 𥫗 枝
人形の法仏梅やゆらしの子 — ヽ 陀
蹈下駄の足音亭し冬の月 — 香 椋
飛んで月影ちかきや小てもかな — 木 彦
ちらくの香りに出より酒肴 — 英よし
百の市新ある事て酒しぶり — まりき
人中を出れ小風ありしの市 — 和 枝
ワしてけきなひらくや名納豆 — ヽ
下駄の音さまする雪の常をかな — 解 晁
皇ちらくし野山のくれかな — 尾 柱
乃なゆらくおとさや今の雪 — ヽ
筆てしおふくらつのらんかな — 文 宅
世子月のあしくそくれ降きも支 — 松 古
売をも私しもね私よ腹の味 —
出る子ら恋の口れふ御くらさ — 雅し 今
姉さ母を子の捨て捺りそらかな — 渭 而

[illegible]

世をふけて酒をくむ白髪爺かな — 兎風
花法や牛の骨ぬの肩くるま — ヽ
橋ちらよ出んでへ久り読ありら — 東 我
餅つきの音もさるうしさ巌かな — 素 周
白らんさや猫も杉子も巌木戸 — 禾 旌
雪の出かつりもはもひとら荻花 — 彦
柴のちりゆくらむやおくさ川 — ヽ
戸のおきを捨ってさまや冬の月 — 和 枝
宝六か下 —
ちらひかり尻も酒ゐの新雪も — ヽ
鬼ハお福ハ内梅のまくしかな — 雲 風
おゐ仙のさまや旭もやれ今も — ヽ
双六の乃中さちらや去とと待 — 素 旌
頭巾気でさらし藤壺のうてれる — 松 戈
おむつるうるうし □□□ — 寛 之
大津絵おすまくりしの豆 — 梅 我
捨 糸

夕可庵素牛評

宗匠□□

天 捨念　地 素旌　人 卜崩

香き近ノア
目才子近出されくりはや後口 — 呈 賀
岩子をらし菜種くらりくらり
饒師も絹羅きまも日や土乾打 — ヽ
むてらろおひらくる畠かな — 六 日
宮をそらむ唇ふうしこちのむ
ここ月も初し柳の枝かくれ — 素 旌

ゑやさゝて焼きて了山を見し山々り
其頃ゆゝの木くゆらふ白山へ
尉の西山より出く了て見を
ワ松や末代の斜を牛もなく
ゆる山まらんとて見ゆ伽のれ
孝子役あゝありそくゆるとそり
おうらくゆるのふ山もくり松
ちのあのりあそつきる寺の水ふ
ちの内やれ葉も椿の一のひ峰
うゝの大り彼岸の椿あそぞ
琵琶の飛も東りゆかんへ
笑米子如花の好の子ゝ
ますへ山ハえるみの出くくなけを

○

比良の雪未に吉野く迎へり　俊之月当

○

石清水雪の気色を隠鳴

残の雪消ハ崇へと上つりけり

ゝ捨　卜翁
ゝ捨　念
ゝ甫　念
ゝ捨　念
六印
弦系
捨念
松山
尭遊

子日庵
三我居士
追哭忌
追善

李林

秋混題三句合

三冊

子日庵素牛評

秀逸 高雄

[illegible] フカ川 春鳥

[illegible] 夢笑

[illegible] タテ川 大塊

[illegible] 文二

[illegible] 丸炭

[illegible] 紫水

[illegible] 海静

[illegible] 鶴眠

[illegible] フカ川 藜屯

[illegible] 月江

[illegible] 静丸

[illegible] 玉友

[illegible] 笑笑

[illegible] 抹里

[illegible] 蒼蛙

[illegible] 井浦

[illegible] 条々直

[illegible] 岩丸

[illegible] 凝九

[illegible] 荏川

[illegible] 写家

[illegible] 篤我

[illegible] 小松 レ

[illegible] 柳のや

[illegible] 枝我

[illegible] 捨忽

全六印

[illegible] 文二

[illegible] 呉水

[illegible] 九皐

[illegible] 緑雨

[illegible] 妹笑

[illegible] 自耕

[illegible] 十寸穂 垚雄

[illegible] 小松 亮枝

[illegible] 菊我

[illegible] 閑我

[illegible] 翠風

奥足軒梅路評

秀逸六印

[illegible] 魯雀

[illegible] 秀清

[illegible] 梅生

[illegible] フカ川 暁鳥

[illegible] 芋十

[illegible] 如扇

[illegible] 大久木 糸枝

[illegible]（小松レ）　一 徐我
[illegible]　閑我
[illegible]　拾我
[illegible]　捨念
[illegible]　翠風

顧月庵柳我花評

秀逸六句

[illegible]　カツミカ　登山
[illegible]　フカ川　素良
[illegible]　玉恵レ　蕋久代
[illegible]　柳ミヽ　花江
[illegible]　上夕霖　一丸
[illegible]　九皐

同七句

[illegible]　小松レ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　フカ川
[illegible]

清文堂松山花評

秀逸隅田川

[illegible]　スサキ
[illegible]　フカ川
[illegible]　チトセレ
[illegible]　赤扇
[illegible]
[illegible]　羽恵
[illegible]　小松

同六句

[illegible]　アイ八年
[illegible]　チトセレ
[illegible]　羽恵

秀逸軒玉水

可夕庵精我花評

あれ尾にあはれてゐるや吹山の風　　文二
芋角力負てもさとや申すらん　　静山
鬼灯や鍋の中まで去りしぬらほ　イハキ　東柳
ふりつけて人まねするも浮かれけり　紫文
破ろや見えんの花も手と色りなけ　　　孟山
月の上の庭より影や月の雲　安島　洽補
嗅そうな香も名のつく蝶菜かな　舊　秋子
萩野のさやけさに豆数かな　　宵静
出るまで笠とる音のからかな　月古　古可
釈子しそ芋も月見るさしきかな　小松　釆我
宝帝灯りも丁子うしろかな　　拾我
秋風にあはれて去年の出茶屋かな　　翠風
何く出て来るして来る木の実かな

空古印
嵐から余所の田ともくるかな　　　英笛
うくらひを割てみそする西瓜かな　フカ川　三弥
浮世を余所に色よく松の影　　　古岳
秋の来てよひしてゐる蕉子かな　みとり庵
そのかとの香りをかもね法居かな　十日　十三坪
果てるの寄る八崩まそれなり　　蓑里
つるりん棚もふくらもうききなり　　梅貨
述ててあまへ入るひみくなり　　文之補

兼題秋の古名

泊呼庵渭水評

喜之老を得
赤しるの羽色かくるや萩の色　　了我
うらぶちの影にそつくや芦の色　　松山
笑ちるの嘆そうるつくまくかな　　精我
厂のあり橙の類黄さくなり　　芳去
かれ畑の菊八枝実のしかな　　翌風

空古印
わすれもの花そ萬の白萩おもしろり　蕉星
顔と着るもあれさしまや菊の花
故なしく　　窕拙

呉竹庵喜雄花評

喜之風人得
そあのまきさ大和しそ御蘆の色　　文二
女手おもてもれ多り陸奥の花　　呉我
初厂もめつ出る再まそきまくなり　　騒我
古着やあり寄るまむさその花

空古印
押合そあのやめしろも数十夜も　　松画
佐渡まてしる土や去年の富士庵　　呆我

○
ひの殊さるよ年おりまつ名の花　亜彩呆佳　雄
墨あさ月をもくまらてさまかな　呆佳　精我
未枯や精舎の灯りそくさまそ　　松山
数し光るの灯の朱や菊の花　　柳我
折秋や宿りしるも留守して　亜彩寿志　渭水
二夜志隔る柚や芦の月の庵　寿志　梅路
ちきのぐぐみのむらし
亡父ら出てさを数むくて
月古の筆のかくなり庵の秋　　素牛

意栗
琴雄筆

子日庵評
天六四五 閑我
外 篤我 亀拙
地六五四 路首 菓菴 嬉笑 長久丸 小製
人四四五 閑友 呂我 路我 月雀 柳の台

東之軒評
天六〇二 錦我
外 製風 呆斎
地六五一 宗信 糸拙 緑竹 一丸 招舟
人六〇一 魯雀 柳枝 九条亭 岸梁 小雁

顔月庵評
天六〇五 幽舎
外 九条亭 鷲斎
地六五五 閑我 製風 静仁 路斎 一丸
人六〇〇 長久代 宗斎 亀拙 長雄 静賀

清文堂評
天六四〇 喜雄
外 素良 秀信
地六〇〇 閑我 沖戸 冥友 呂玉 文二
人〇〇五 三岳 乃英 平斎 梅柳 貞斎

河夕庵評
天六〇五 冬之浦
外 製風 呆斎
地〇五五 麥童 文二 玉のや 月倚 長多
人五五五 北崖 菁山 長久代 亀渕 乃英

泊呼斎評
天六五 亀遊
地四五 松山
人四〇 了我

呂竹庵評
天四〇 善我
地〇〇 瓢我
人五〇 一賀

嘉永五年壬子九月十五日於子日庵宗匠
催 小松連

子日庵撰

天（六五一）亀水　地（四五五）精我　人（〇〇五）瓢我

判　英理　野我　梠仏　英理　羨風
　　呆言　三好　富岸　可孫　托我

秀逸五雄

戸おしさの涼し子持をり　千極レ　暦年

短夜の升よたらきし蛍か君　千とせ　妹笑

涓ひけし寄の手くし寺る扇かな　フカ川　一賀

通りし扇るふ氷もつゝれるの鴨　翁レ　松川

山坂は雲よりおりし菅笠　下サユ　晴俊

翌さくしも咲かくしたり櫻子　下五大糸　一三

よきそうりぬ實き數さ古野紙北り　ナミキ　富岸

響鳴や夏もとしる實の行　カワレ丁　連理

まくしさや森陰もくせの數よ入　花琴

六月の名よ餘つく土不の孔　フカ川　乐賀

木耳の斜よ耳あし傍佐居　栄悰

嫩も牛らめりし出り逗入り　ゝ

笑庭の不二も咲や虎耳草　ゝ

よきあふらきめの神の桂乙女　小松レ　托我

花るる十九たちまち月夜かな　ゝ

白梅やいく夜守きのあとゝのり　ゝ　孫我

薹生ふ西へそむかれ雲の峯　ゝ　桔我

吟ふけふもくもれときもか祥り　濱松　光月

田は稲冠りて過ている妻かな　ゝ　古岸

給かて嵐ふりのしと鉢朱かな　キ　一静

出かう不二見て夏や吟かし諸　ハ　青丸

梅かまよ陰のまるもまる茶碗かな　梅枝

雲の峯えかしも出来ぬ浮山かな　常ホタテ　友風

苗配るまりくを行やまあらし　石化

結てうう風よやせまる糀かな　篤我

百合赤し一瓣の空き色のめる　下毛並木　遊志

袖ふれいりとのあるりま苔の雲　弁ケイハシ　鬢風

夏かうその音しいまそう穂なる　小松レ　拾玄

深熊き松の琴あり竹婦人　ゝ

文亀田山六印

梅さくそふ鶯る牛存室さかな　彩大ハシ　榛策

居餓て棲かる鳴る色々の菊や　小石川　光雄

海苔寒るふ虫もあり蔭の手去　名梅レ　枕窓

白色やるの上まかれきてより　タテ川　寿玉

春の日や旅よまきてる花の際　下毛川サキ　一傑

あ折さおは覆すし富士諸　小吉レ　白る

不あ富や吉ひ方涼も陰さまそ　ロウ谷　堯秀

あの手摂色の手くしとあかりより　光月

菜の花やつもり岩手縦あくり　濱松レ　月扇

年ふけかに己うすのまり夏の月　窓史

二

鳳吹舎錦我花評

天五五五 一丸　地〇〇口 松よし　人五五口 執我

外 松翁 光丸 古雪 一松 松翁 貞翁 高岸 白鳥 五山 一賀 錦我

秀逸之部

[illegible]の小萩(?)　山ノ手　玖賀

[illegible]　柳　和

[illegible]　十寸ホ　松よし

[illegible]　下モ大久保(?)　貞翁

故のまへや[illegible]の古内裏　栄

[illegible]汗を投の中[illegible]　フカ川　子隣

出口[illegible]故を追[illegible]　小日向　宝保

[illegible]の山の[illegible]　錦我

空云印

九[illegible]大内[illegible]　林　丁　五山

[illegible]椀の[illegible]　一賀

芽蓋の出来て出代る女[illegible]　梅我

二子山[illegible]　水泉

世を[illegible]　古志

神[illegible]の雪　[illegible]

改号并点印披露

思静庵一笑花評

天〇〇口 玉司　地〇五五 花雫　人〇〇五 和水

外 五山 春[illegible] 徐[illegible] 文補 梅佐 木賀 静 松よし 甫静 高岸

秀逸之部

[illegible]　アタケ　桂

[illegible]の[illegible]　菜

[illegible]の二日を[illegible]　五山

[illegible]　フカ川　湖[illegible]

[illegible]　静丸　レ　今

[illegible]

[illegible]　古吉

仏法と[illegible]　光

[illegible]　キ　ハ

[illegible]　栄

[illegible]　浜松　レ　梅

[illegible]の先　光

[illegible]　一

[illegible]　九羽

ねなし〳〵 子日庵

極楽も地獄も志らで年くれぬ 松翁

のこる処々は面目なし夜もすがら 鷺風

明ぬ寐覚侘びて旅寐かな 檜窓

八重ひとへんの花や猶まかり 画史

○

白川の空は冥途のしら雲かな 声我

仏前に燈明のしづく也 [illegible]

白梅やいつの空にもあかるきり 玉司

法のしるべの色よや菜の花 小素 英理

羅つくる色にまつはし咲花の 三 好

仏も鬼も知らぬや浩う哉

○

神頼や梅の図両旭にあかる

梅うまや投入といはんか 長丸 窓史

○

なきさにふる花のたちやかしこの花

子々振る浮世の梅ほのかなり 一笑 孫我

○

継ぐ梅子なりの名残かな 素牛

安永六年酉正月 [illegible]

なにも角もと [illegible]

[illegible]

乾坤の[illegible]

暑[illegible]

[illegible]